

平成28年度第2回近畿中国森林管理局国有林材供給調整検討委員会の開催結果について（概要）

第2回近畿中国森林管理局国有林材供給調整検討委員会を開催し、供給調整の必要性等についてのご意見をいただきました。

1 日時及び場所

平成28年9月20日（火）
近畿中国森林管理局4階第3会議室

2 議題

- (1) 近畿中国局管内の需給動向について
- (2) 国有林材供給調整の必要性について
- (3) その他

3 議事概要

《検討結果》

住宅関係では、消費税増税の先送り以降も低金利や相続税課税対策から新設着工戸数に増加が見られる。利用関係別では、持家・貸家・分譲一戸建ては増加。分譲マンションは減少傾向にある。

合板関係では、過大となった原木入荷量を抑えるため、メーカー側が仕入れを絞り、原木市場に対して値下げを要請している。製品の品薄感は解消されておらず、納期まで約2ヶ月待ちになるなど流通での供給タイト感が続いている。

チップ関係は、バイオマス向けは依然として旺盛。製紙向けは為替が円高に振れたことから、輸入チップへの転換により国産チップの値下げを要請する動きがある。

原木出材は、7月中旬まで梅雨で減少していたが8月中旬には大幅に回復した。一方、原木平均単価は横這いで、買い気は勢いに欠けている。

現在の木材需給動向について検討した結果、国有林材の供給調整の必要性は認められない。

〈主な情報、意見について〉

○国産材の供給及び価格の動向について

- ・和歌山県内の原木市場のうち、出材が増えていない市場の木材価格は厳しい状況が続いている。良材が県外へ流出している傾向がある。また、県内には木質バイオマス発電施設が無くエアポケットの状態である。
- ・奈良県桜井市の原木市場では5月以降夏場までの出材量は激減した。スギ並材は5月以降出材量が減少傾向だったが年初からの安値水準が継続。ヒノキ並材はスギよりも先に減少傾向にあったため7月から若干の値戻しがあった。下級材については、引き続き木質バイオマスの取り引きが安定している。
- ・木質バイオマス発電の影響から、素材生産業者にチップパー機の導入が進んでいる。

○原木需要分野（川下）の動向について

- ・京都府下の合板工場ではフル稼働で製造を続けているが、納期まで約2ヶ月待ちの状況である。これ以上生産量が増やせないレベルで製造を続けている。
- ・製材の大手小売は頻りに売出しを行い前年比を下回ることなく頑張っているが、小売同士の格差が拡大をしていることや、ホームセンター等との競合により小さな小売が苦しんでいる状況が垣間見られる。

○その他

- ・ 育林の段階から優良材生産を手掛けていかないと、優良材や役物が出てこないのではないか。
- ・ 長伐期化に伴う大径木の出材への対応として、大径木を製材できる台車を投入し、構造材だけではなく内装材向けの利用を考える必要がある。